

第289回ゴム技術シンポジウム

「基礎から応用技術で見るゴムのトライボロジーV」

主 催 : 一般社団法人日本ゴム協会 研究部会・トライボロジー研究分科会
協 賛 : 日本化学会、高分子学会、自動車技術会、石油学会、繊維学会、日本機械学会、
(予定) 日本合成樹脂技術協会、日本材料学会、日本接着学会、日本複合材料学会、日本分析化学会、
日本レオロジー学会、プラスチック成形加工学会、マテリアルライフ学会、日本トライボロジー学会 (順不同)

ゴム・エラストマーの摩擦・摩耗は複雑な現象であり、日々新たな知見が明らかになっている。本シンポジウムではゴム・エラストマーのトライボロジーの基礎的現象の理解を助けるとともに、その応用につながる新規技術を紹介する。

日 時 : 2024年1月17日(水) 10時30分~17時05分

場 所 : 東部ビル5階とオンライン(ZOOM)併用によるハイブリッド開催

※今後の新型コロナウイルス感染状況により、オンライン開催に変更となる可能性があります。

受講料 : 日本ゴム協会会員・協賛団体会員 24,200円 日本ゴム協会学生会員 5,500円

※受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも、ご所属が法人としてゴム協会会員(賛助会員)の場合は1口2名様まで会員扱いの受講料で受け付けます。

シニア制度対象会員 12,100円(60歳以上の正会員) 会員外 33,000円

受講料には消費税・テキスト代を含みます。

定 員 : 会場(東部ビル): 35名

※定員に達し次第、オンライン参加をご案内させていただく可能性がございます。

申込要領 : 下記QRコードまたは弊会ホームページ(<https://www.srij.or.jp>)よりお申込みください。

オンライン参加者には1月10日(水)以降に当日のご参加用URLを事務局よりお知らせいたします。

送金方法 : 開催前日までに、銀行振込にてご納入ください(三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847

一般社団法人日本ゴム協会)。誠に恐れ入りますが、振込み手数料は貴方でご負担ください。また、一度ご入金された受講料は返金いたしかねますのであらかじめご了承ください。

問 合 先 : 一般社団法人 日本ゴム協会 第289回ゴム技術シンポジウム係

(〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階

TEL 03 (3401) 2957 E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp)

時 間	演 題	講 師	
10:30~10:35	開会のあいさつ	トライボロジー研究分科会主査 岩井 智昭	
10:35~11:35	「表面形状や剛性分布設計に基づくゴム材料の摩擦制御に関する研究」 名古屋工業大学 前川 覚 氏 タイヤやベルト、シールなどゴム材料を用いた機械要素は数多い。本発表では、表面形状や剛性分布付与などの機械的視点に基づいたゴム材料のトライボロジー設計手法について紹介する。		
11:35~12:35	「タイヤ摩耗粉が環境に及ぼす影響(仮)」	金沢大学 岩井 智昭 氏	
13:50~14:50	「摩擦・摩耗面の観察を中心としたシューズソールのトライボロジー(仮)」 ミズノ(株) 笹森哲弥氏、吉川祐輔氏 シューズアウトソールに求められるグリップ力や耐摩耗性は意匠・材料に左右される。最適な意匠・材料設計のため、観察を中心とした摩擦・摩耗に関する取り組み事例を紹介する。		
14:50~15:40	「ゴムの超高速すべり摩擦」	東京大学 山口 哲生 氏 我々は、すべり速度が弾性波速度を上回るような超高速(超音速)すべり条件において、特異な摩擦挙動を初めて見出した。本講演では、実験結果を紹介し、理論解析について解説を行う。	
16:00~17:00	「Rubber Friction and Tire Dynamics: Applications of a Multiscale Contact」 (ドイツよりオンラインにてご講演)	Forschungszentrum Jülich GmbH B. N. J. Persson 氏 Rubber friction is a topic of huge practical importance, e.g., for tires, rubber seals, wiper blades, conveyor belts and syringes. In most theoretical studies rubber friction is described using very simple	

phenomenological models, e.g., the Coulombs friction law with a friction coefficient which may depend on the local sliding velocity.

However, rubber friction depends on the it history of the sliding motion (memory effects), which we have found to be crucial for an accurate description of rubber friction. For rubber sliding on a hard rough substrate, the history dependence of the friction is mainly due to frictional heating in the rubber-substrate contact regions. Many experimental observations, such as an apparent dependence of the rubber friction on the normal stress, can be attributed to the influence of frictional heating on the rubber friction.

17:00~17:05 閉会のあいさつ

トライボロジー研究分科会副主査

網野 直也 氏

※プログラムは一部変更になる場合がございます。

☆右のQRコードからお申込み下さい!(準備中)